平成30年12月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年８月６日

上場会社名　株式会社デジタルアドベンチャー　上場取引所　東
コード番号　4772　ＵＲＬ　http://www.digiadv.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）崔　官鎔
問合せ先責任者　（役職名）管理本部長　（氏名）大山　智子　ＴＥＬ　03-6809-6118
四半期報告書提出予定日　平成30年８月９日　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成30年12月期第２四半期の業績（平成30年１月１日～平成30年６月30日）

（１）経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第２四半期	3,195	△12.2	53	△67.0	50	△68.9	48	△69.0
29年12月期第２四半期	3,641	－	161	－	163	－	156	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第２四半期	2.94	－
29年12月期第２四半期	9.49	－

（注）平成29年７月１日付で、普通株式について10株を１株の割合で株式併合を行ったため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、１株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後１株当たり四半期純利益を算定しております。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第２四半期	6,088	4,670	76.5	282.23
29年12月期	6,380	4,627	72.3	279.29

（参考）自己資本　30年12月期第２四半期　4,659百万円　29年12月期　4,611百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
30年12月期	－	0.00			
30年12月期（予想）			－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．平成30年12月期の業績予想（平成30年１月１日～平成30年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,700	△13.8	80	△73.4	80	△74.0	75	△74.1	4.54

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期２Ｑ	16,520,351株	29年12月期	16,520,351株
②　期末自己株式数	30年12月期２Ｑ	9,167株	29年12月期	9,087株
③　期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期２Ｑ	16,511,209株	29年12月期２Ｑ	16,511,761株

（注）平成29年７月１日付で、普通株式について10株を１株の割合で株式併合を行ったため、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※　四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信［添付資料］３ページ １．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
第２四半期累計期間 …… 5
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 6
（４）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済、金融政策により企業収益と雇用環境に改善が見られたものの、ヨーロッパやアジア新興国等の経済の先行き、米国の強硬な通商・外交政策によっては、世界的な貿易の収縮や金融市場の変動による影響など依然として先行き不透明な状況で推移しております。

このような経営環境の中、当社の当第２四半期累計期間においては、ライツ＆メディアコミュニケーション事業では、ファンミーティング等のイベントを開催、大型ＣＤ等の販売、また引き続き版権事業が順調に推移しております。また、放送事業では、当事業年度から第３のチャンネルKchan!韓流ＴＶを開局したことで、３チャンネル放送運営体制が本格稼働いたしました。

しかしながら、一部イベントの原価が嵩んだこと、番組償却の負担が増加したことなどにより、原価が大きく増加し、この結果、当第２四半期累計期間の売上高は31億95百万円（前年同期比12.2％減）、営業利益53百万円（前年同期比67.0％減）、経常利益50百万円（前年同期比68.9％減）、四半期純利益48百万円（前年同期比69.0％減）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、前事業年度より会社組織の変更に伴い管理方法を見直した結果、報告セグメントを従来の「物販事業」及び「ライツ＆メディアコミュニケーション事業」を統合し、「ライツ＆メディアコミュニケーション事業」に変更しております。また、各セグメントの業績をより適切に評価するため、本社一般管理費の配分方法の見直しを行い、従来、各事業セグメントに配分していた当社管理部門に係る一般管理費を全社費用として調整額に含めることとしております。

（ライツ＆メディアコミュニケーション事業）

イベント・マネジメント事業では、当第２四半期累計期間において４月に人気アーティストHIGHLIGHTのファンミーティング「HIGHLIGHT FANMEETING 2018 in JAPAN ″光″ ～Hikari～」、５月に人気俳優 SONG SEUNG HEONのファンミーティング「SONG SEUNG HEON FANMEETING 2018 ～One day～」、人気アイドルグループGolden Childのファンミーティングツアー「Golden Child ファンミーティング″GOLDEN DAY″ in Japan」、ワールドスターRAIN約１年ぶりのファンミーティング＆ミニライブ「RAIN Japan Fan Meeting 2018 ～雨音～」、６月に人気アイドルグループINFINITEのL（キム・ミョンス）「Kim Myung-Soo ～L～ 2nd Fanmeeting in Japan」などを開催しております。アーティスト物販では、４月から６月に防弾少年団のアルバム「FACE YOURSELF」「LOVE YOURSELF 轉‘Tear’」を発売、６月にキム・ヒョンジュン「Take my hand」のＣＤ・ＤＶＤ発売など行っております。

版権事業では、第２四半期累計期間に引き続き、大型ドラマ版権のＤＡＴＶ、ＫＮＴＶでの放送をはじめ、ＣＳ・ＢＳ・地上波での放送が続々決定しており、ＤＶＤ・ＶＯＤ化事業も順調に推移しております。

利益面では、一部イベントの原価が嵩んだこともあり、この結果、売上高は20億42百万円（前年同期比16.4％減）、セグメント利益は１億36百万円（前年同期比17.2％減）となっております。

（放送事業）

放送事業では、自社テレビ局ＤＡＴＶとＫＮＴＶの２チャンネル運営による継続的な視聴料収入と収益の安定化に加え、１月に開局しました第３のチャンネルKchan!韓流ＴＶでの若年層をはじめとした新たなターゲット層へ向けたサービス拡大を図ってまいりました。また、６月にはオリジナルK-POP番組「Power of K in Japan 2018」（出演：FUNKY GALAXY from 超新星、RAVI（VIXX）ほか）の公開生中継ライブを行い、話題を提供いたしました。

ＤＡＴＶは、イ・ジョンヒョン（CNBLUE）主演最新作！「その男、オ・ス（原題）」、チェ・ダニエル除隊後復帰作！「ジャグラス（原題）」、大人気アイドルVIXX出演のバラエティ「VIXXが愛したアジア」、併せて「びびっとVIXX特集 第2弾！」の特集などを日本初放送、ＫＮＴＶは、キム・レウォン主演ファンタジーラブロマンス「黒騎士（原題）」、イ・スンギの除隊後初バラエティ「イ・スンギのチプサブイルチェ～師匠に弟子入り」、クォン・サンウ＆チェ・ガンヒ主演「推理の女王２」、東方神起初のレギュラーバラエティ番組「東方神起の72時間」、ユン・サンヒョン、ハン・ヘジン共演ラブロマンス「手をつないで、沈む夕日を眺めよう（原題）」などを日本初放送しております。また、Kchan!韓流ＴＶは、オリジナル番組に注力し「JGのハルハルTV」、K-POP番組「Power of K」を韓国から生放送するなど好評を博しております。

利益面では、番組償却の負担が増加したこと、オリジナル番組制作の先行投資などにより、この結果、売上高は11億89百万円（前年同期比3.3％減）、セグメント利益は95百万円（前年同期比45.5％減）となっております。

（その他事業）
その他事業では、売上高は９百万円（前年同期比0.4%増）、セグメント利益は０百万円（前年同期比34.2%減）となっております。

（２）財政状態に関する説明

①　資産、負債および純資産の状況
（資産）
当第２四半期会計期間末における資産は、60億88百万円となり、前事業年度末に比べ２億91百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金が６億98百万円減少、および前渡金が３億46百万円増加したことによるものです。

（負債）
当第２四半期会計期間末における負債は、14億17百万円となり、前事業年度末に比べ３億35百万円減少しました。この主な要因は、買掛金が２億91百万円減少、前受金が２億20百万円増加、およびその他が２億60百万円減少したことによるものです。

（純資産）
当第２四半期会計期間末における純資産は、46億70百万円となり、前事業年度末に比べ43百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が48百万円増加したことによるものです。

②　キャッシュ・フローの状況
当第２四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、、前事業年度末に比べ６億98百万円減少し、25億88百万円となりました。当第２四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）
営業活動によるキャッシュ・フローは、６億42百万円の資金の減少（前年同期は２億28百万円の増加）となりました。
これは、主に前渡金の増加が３億46百万円および仕入債務の増加が２億91百万円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）
投資活動によるキャッシュ・フローは、50百万円の資金の減少（前年同期は３百万円の減少）となりました。
これは、主に、無形固定資産の取得による支出が20百万円、貸付金の貸出による支出が48百万円、および貸付金の回収による収入が20百万円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）
財務活動によるキャッシュ・フローは、２百万円の資金の減少（前年同期は１百万円の減少）となりました。
これは、主にリース債務の返済による支出によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明
当事業年度の業績予想につきましては、平成30年２月８日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成29年12月31日）	当第２四半期会計期間 （平成30年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,287,735	2,588,739
売掛金	572,159	475,316
コンテンツ	231	－
商品	－	62,568
番組勘定	776,397	781,086
コンテンツ事業権	726,728	769,333
貯蔵品	124	282
関係会社短期貸付金	20,000	－
前渡金	693,220	1,039,905
その他	79,627	104,260
貸倒引当金	△260	△220
流動資産合計	6,155,963	5,821,271
固定資産		
有形固定資産	57,017	52,037
無形固定資産	75,843	84,058
投資その他の資産		
投資有価証券	39,731	39,731
その他	149,113	190,291
貸倒引当金	△97,202	△98,778
投資その他の資産合計	91,642	131,243
固定資産合計	224,502	267,339
資産合計	6,380,466	6,088,611
負債の部		
流動負債		
買掛金	823,094	531,583
前受金	466,217	686,264
その他	431,106	170,242
流動負債合計	1,720,418	1,388,089
固定負債	32,878	29,768
負債合計	1,753,297	1,417,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,591,492	4,591,492
資本剰余金	1,825,566	1,825,566
利益剰余金	△1,772,661	△1,724,094
自己株式	△32,935	△32,967
株主資本合計	4,611,461	4,659,997
新株予約権	15,707	10,754
純資産合計	4,627,169	4,670,752
負債純資産合計	6,380,466	6,088,611

（２）四半期損益計算書

（第２四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成29年１月１日 至　平成29年６月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成30年１月１日 至　平成30年６月30日）
売上高	3,641,568	3,195,794
売上原価	2,967,575	2,629,366
売上総利益	673,993	566,427
販売費及び一般管理費	512,191	513,017
営業利益	161,802	53,410
営業外収益		
受取利息	1,760	1,072
貸倒引当金戻入額	100	40
債務消滅益	5,372	－
その他	550	111
営業外収益合計	7,783	1,223
営業外費用		
支払利息	96	591
為替差損	6,002	3,155
その他	2	17
営業外費用合計	6,102	3,763
経常利益	163,483	50,870
特別利益		
固定資産売却益	1,570	－
新株予約権戻入益	18,712	6,773
特別利益合計	20,282	6,773
特別損失		
減損損失	717	－
特別損失合計	717	－
税引前四半期純利益	183,048	57,644
法人税、住民税及び事業税	26,293	9,076
法人税等合計	26,293	9,076
四半期純利益	156,755	48,567

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成29年１月１日 至　平成29年６月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成30年１月１日 至　平成30年６月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	183,048	57,644
減価償却費	11,058	15,982
減損損失	717	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	669	1,536
受取利息及び受取配当金	△1,760	△1,072
支払利息	96	591
固定資産売却損益（△は益）	△1,570	－
新株予約権戻入益	△18,712	△6,773
為替差損益（△は益）	△1,165	3,846
売上債権の増減額（△は増加）	△1,527,666	96,843
たな卸資産の増減額（△は増加）	3,454	△109,788
前渡金の増減額（△は増加）	252,682	△346,684
その他の流動資産の増減額（△は増加）	139,295	△16,385
仕入債務の増減額（△は減少）	826,111	△291,511
前受金の増減額（△は減少）	263,142	220,046
その他の流動負債の増減額（△は減少）	80,935	△231,841
その他	14,048	△6,877
小計	224,386	△614,444
利息及び配当金の受取額	3,941	837
利息の支払額	△96	△591
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	40	△28,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	228,271	△642,302
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,286	△2,664
無形固定資産の取得による支出	△29,548	△20,717
有形固定資産の売却による収入	1,570	－
無形固定資産の売却による収入	－	1,282
敷金及び保証金の差入による支出	△800	－
貸付けによる支出	－	△48,000
貸付金の回収による収入	30,100	20,000
その他	△1,450	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,415	△50,098
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1,581	△2,964
自己株式の取得による支出	△109	△32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,690	△2,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,165	△3,597
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	224,330	△698,995
現金及び現金同等物の期首残高	1,894,590	3,287,735
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,118,921	2,588,739

（４）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第２四半期累計期間（自　平成29年１月１日　至　平成29年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）	合計
	ライツ＆メディアコミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,404,680	1,227,888	3,632,568	9,000	3,641,568
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	39,563	2,485	42,048	－	42,048
計	2,444,243	1,230,373	3,674,617	9,000	3,683,617
セグメント利益	165,216	175,755	340,971	927	341,899

（注）　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	340,971
「その他」の区分の利益	927
全社費用（注）	△180,097
四半期損益計算書の営業利益	161,802

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期累計期間（自　平成30年１月１日　至　平成30年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）	合計
	ライツ＆メディアコミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,997,328	1,189,430	3,186,759	9,035	3,195,794
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	44,993	－	44,993	－	44,993
計	2,042,321	1,189,430	3,231,752	9,035	3,240,787
セグメント利益	136,735	95,714	232,450	610	233,060

（注）　「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	232,450
「その他」の区分の利益	610
全社費用（注）	△179,650
四半期損益計算書の営業利益	53,410

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

前事業年度より、会社組織の変更に伴い管理方法を見直した結果、報告セグメントを従来の「物販事業」及び「ライツ＆メディアコミュニケーション事業」を統合し、「ライツ＆メディアコミュニケーション事業」に変更しております。

また、各セグメントの業績をより適切に評価するため、本社一般管理費の配分方法の見直しを行い、従来、各事業セグメントに配分していた当社管理部門に係る一般管理費を全社費用として調整額に含めることとしております。

なお、当第２四半期累計期間の比較情報として開示した前第２四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の算定方法により作成しております。

４．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。